

各地の た　よ　り

倉敷天文臺
神戸支部
京都京星會
大阪支部

倉敷通信

扱、晝の仕事であるが、當地に来て以來何分1人切りであるので、話相手と言つても

他の世間の人ばかりなので色々面白い事を経験する。晝は家で晝寝でもしてゐるのだらうと思込んでゐる人があるかと思ふと、「曇天續きで御暇でせうね」と羨しさうに農研の若手の人に言はれて面喰ふ事もある。平素仕事と言へば實驗が主なのでさう考へられるのかとも思はれるが、さる

新設の農業方面の一研究所を參觀の節一番高價な器械はとの問ひにモノロ1計算器と答へられた所を見ても、矢張り相當計算等に勞力と時間を農學の方面でも使ふのであらう。又小生の如く數學の不得手な者には甚だくすぐつたく感ぜられる所であるが、天文と言へば直ぐに數學を連想されるらしいが、一體それを何時天文學者がやるつもりなのだらうか。まさか態々晝寝で夜起きてやる筈はないが。望遠鏡を覗かぬ天文學者がゐると言へばどんな顔をすることだらうか。實際我國では夜星を覗く者は天文學者と言はれず素人と見られる傾向すらある。これは我國の天文設備の現状を見れば無理もない所であるとも言へようか？

とに角午前中3—4時間机の前に座つてゐると正午の時報である。頼りなく思はれるかも知れぬが、ラヂオの時報でクロノメータ1を合はして置いても掩蔽等の觀測には充分である。1時間中食の時間が取つてあるが、金曜日は農研の「金曜會」なる午餐會に出席する。食事より寧ろ食後の十數人の所員の方々との雑談を楽しみにしてゐるのだが、支障があつて半分位は休んでゐる。近頃は1週間も経てば國際的、國內的に一つや二つ中心話題となるやうな事件の起らなかつた事はなくなつたが、思へば我々は激しい時代の渦に卷込まれてしまつた譯である。

夕刻は調子に乗つて18時頃まで頑張つてゐる時がある。曇天の日は特にさうである。參觀者、新聞記者の仕事を妨げる者も最近は一寸と遠のいた。

4月初に起つたヴェスタ事件には山本先生にすつかり落第點をつけられ大しよげだつたが、農研の方々との薄荷試驗場參觀は仲々面白く、大分花山を訪れた時、皆を煙に卷く材料が仕込めたのは愉快だつた。(K 生)

神戸支部第七回例会

4月例会は4月9日(土)18時、例によつて元町大丸食堂別室に於て開かる。

晩餐の後山本會長より最近の天界トピックとして「大熊座の α 星に就て」のお話あり。二重星である事が確認されてからの興味深い観測の歴史に就て縷々御説明あり。更に最近の報告にかゝる該二重星の周期、離心率、スペクトル分析、視線運動、軌道諸要素、質量等々解説的にお話せらる。次いで「日本語に於けるコンソナントの一考察」と題して本支部會員佐伯信太郎氏より御専門の數學とは畑ちがひの方面に於いて御蘊蓄を傾けられる。轉音現象、約音現象に關して自らお書きになつたローマ字の表を用ひてのお話である。御蘊蓄の深さよりも、わざわざかうして表まで作つて來て下さつた懇切な御盡力に對して會員一同感激する。

22時散會。有志は更に席をあらためて天文夜話に更ける熱心さである。當日の出席者は山本博士以下15名。神戸市内、阪神間等の在住者で本會に出席して頂ける方はまだまだある筈である。次回例会は5月7日(土)の豫定であるから、是非1度出席して頂きたいと切に願ひする。(書記)

京都・京星會

☒ 4月例会 協會本部と合同で4月23日(土)19時より帝大樂友會館で開催。山本博士より「太陽系の内部構造」と題して主として黃道光の研究に就ての講演あり。座談會では東亞の標準時の問題から日本の標準時を1時間早むべしとの山本博士の説も出て賑はふ。22時過ぎ散開。

☒ 會誌「京星」第17號 昭和13年4月號として月末發行、目次は次の通り。

個有運動大きい星の絶対光度—花山天文臺 稻葉通義。地球の未來—下村宏 星座の譯名—野尻抱影。星座和譯に就ての私見—村上忠敬。異なる星座の和名に就て—花野耕太郎。天文用語の統一に就て—東京天文臺 石井重雄。視差の話—田中生。プラネタリウムの起源—宇野生。日時計の作り方—吉岡久男。大阪の新年茶話會—ロケット生。編輯後記。

☒ 「回報」例会、ハイキング、觀望會案内及び天文ニュースを印刷した花山急報型の不定期發行物で、4月12日及び月末に第31號から第33號まで發行された。

☒ 大津藤井天文臺公開 毎月第2日曜日日没後觀望公開、本會より吉岡、宇野幹事が出張してゐる。6月は12日(日)參觀を歓迎する。

大阪支部通信

☑支部報第36號(4月13日) 用紙3枚, 160部發行.

☑4月第2回例会(4月16日) 大阪支部と明星商業學校支部との交觀座談・觀望會として夕刻より開會, 有意義な一夕を天文座談に天體觀望に出席者40名にて盛會.

☑支部報第37號(5月5日) 用紙3枚, 160部發行.

☑趣味の天文雜誌『銀河』第2卷第2號(3月5日發行)目次

表紙「月面シルサリス裂溝」(寫眞版), 口繪・密着燒寫眞「本年1月16日の太陽面」, 扉「即興頭自由詩」愛天學人, 卷頭言「電氣科學館と大阪支部との提携」, 「プラネタリウム開館1周年の圍觀」小島館長, 「プラネタリウムに望む事」足駄, 「プラネタリウム樂屋噺」清水, 「プラネタリウムの辯」高城, 「天象館を詠む」平塚, 「二重星」谷口, 「美濃隕石の概略と2, 3の私見」廣瀬, 「星のぞき(8) イグレッツ」, 「變光星雜話」(4) 西川, 「山鹿素行の見た黃道光」津久井, 「カメラ不要の寫眞複寫法」西森, 「小學教科書科學教材」, 「35經(12吋半)反射鏡を完成して」前田, 「カノーパスを見る」1) 老人, 「奉天だより」志龍須, 「天文街を往く」(8) 漫步士, 編輯後記, 附録「大阪と天文」山本博士.

☑天界副讀本『銀河』第2卷第3號(5月5日)目次

表紙「7.5經反射寫眞儀」(寫眞版), 口繪・密着燒寫眞「獅子座群の大流星」, 扉「水星」アキラ, 卷頭言「時の測定に就いて」公文學士, 「時計雜話」S. I., 「日時計の作方」山崎, 「時計發達史」高城, 「小反射鏡太陽寫眞術」(1) 伊達, 「アイヌ説話の太陽と月」(1) 寺町, 「口繪解説」小嶺, 「南十字星」白桐, 「あの星の輝き」てる子, 「アンタレス」美美子, 「月のうら」作太, 「海王星を見る」S. D., 「或天文狂の思出話」高井, 「カノーパスを見る」(2) 老人, 寫眞部だより.

購讀會員募集中, 御申込次第趣意書贈呈, 大阪四ツ橋電氣科學館内東亞天文協會大阪支部(振替大阪112,726番).

天 界 第 2 0 6 號

昭和13年5月24日印刷
昭和13年5月25日發行

〔定價金40錢〕 送料金1錢

編輯兼發行者 京都市山科, 花山天文臺内(振替大阪56765)東亞天文協會(代表者山本一清)
印刷所 京都市上京區上樁木町千本東入 眞美印刷所〔電西陣3702〕
印刷者 京都市上京區上樁木町千本東入 橋本岩太郎
賣捌所 東京市芝區南佐久間町2の3 恒星社(振替東京64738)